

国立療養所松丘保養園

看護課概要

看護課の理念

私たちは、入所者一人ひとりの人格を尊重し、安全で安心・安楽な看護・介護を提供します。

看護課の方針

1. 入所者の立場に立ち、生命の尊厳を守り、人権を尊重します。
2. 安全で安心な看護を提供するための活動に、組織と個人の双方で取り組みます。
3. 専門職として新しい知識と技術の習得に努めます。
4. 松丘保養園の看護職員として品位ある行動をします。
5. 看護と介護の連携、協働により質の高い看護・介護を提供します。

看護体制

1) 看護単位	5 看護単位
病棟	第1病棟 43床 (保険診療5床含)
不自由者棟	第2センター 36床
	中央センター1階 21床
	中央センター2階 22床
治療棟	一般寮 57床
2) 看護方式	受け持ち制+チームナーシング
3) 勤務体制	看護師・介護員 3交代制

年間行事

- 1月 新年会
- 4月 観桜会
- 5月 歌謡交流大会
- 7月 七夕、納涼祭
- 9月 敬老会
- 11月 物故者慰霊祭
- 12月 年忘れお楽しみ大会

教育研修

1. 松丘保養園は、平成 27 年より入所者の皆様にユマニチュード技法を用いたケアを実践しています。

ユマニチュードとは、「見る」「話す」「触れる」「立つ」の 4 つの動作を基本とした、認知症ケア（その人を大切に思っていることを伝えるスキル（技術）を用いてケアすること）です。ユマニチュードの創始者の一人であるイヴ・ジネスト氏と医師でジネスト・マレスコッテイ研究所日本支部代表である本田美和子先生が、平成 30 年 9 月 18 日に来園し、実演指導を受けました。その学びを大切に、ユマニチュードコアメンバーや教育委員会が中心になり、入所者 1 人 1 人が最期までその人らしく幸せに過ごす事が出来るようケアの向上を目指しています。

【ユマニチュードの四つの柱】

<見る>

目線を合わせることは、平等、信頼、優しさ、友情を表します。

<話す>

相手の尊厳を認め、愛情深く、優しさを込めて、「あなたに会いに来ました」と話しかけます。

<触れる>

広く、柔らかく、撫でるように触れることで、ケアを受ける人に優しさが伝わります。

<立つ>

人間の尊厳は「立つ」ことによってもたらされ、骨格筋系、循環器、呼吸器系など生理的にも良い影響を与えます。

2. 看護師・介護員への研修

平成 30 年度教育委員会では 3 つの集合研修、4 つの現場研修を行いました。

<集合研修>

- * 移乗研修（理学療法士によるデモンストレーション）
- * 倫理研修（倫理的事例についてグループワーク）
- * フィジカルアセスメント研修（循環器内科医師による講義）

<現場研修>

- * 感染管理研修（感染ミニテスト、標準予防策デモンストレーション）
- * 食事介助研修（個別介助の実際のビデオ学習、言語聴覚士による指導）
- * 口腔ケア研修（口腔ケア問題に対する歯科医師、歯科看護師指導）
- * 排泄ケア研修（ビデオ学習、デモンストレーション）

3. 中途採用者研修

当園は中途採用者に対し、職場に適応するための様々な研修を行い、現場ではプリセプターシップ制を取り、個別に丁寧な支援をしています。



啓発教育講演会 （於社会交流会館）

各部署紹介

第1病棟

高齢化が進み生活習慣や悪性疾患・心疾患等で治療を必要とする入所者が安心して治療が受けられる体制を整えています。保養園で最期を迎えたいという入所者の思いに寄り添った看護を提供しています。高齢の入所者が、入室に伴う環境の変化に戸惑うことのないようベッドなど病室内配置の工夫や、各センタースタッフと共にユマニチュード技法を用いて関わることにより**居室環境**に近づける配慮をしています。



歩行訓練中

第2センター

重軽度不自由度の入所者の寮です。買い物や料理、生け花、ゲートボール、カラオケ等の趣味を楽しんでいます。入所者の意思を尊重し、日々の生活が満足できるような看護・介護を提供しています。



入所者のご指導を受け完成

中央センター1階

夫婦と寡婦となった入所者の重中度不自由度棟です。毎日を楽しく過ごしていただくために、季節感のある飾り付けや食事会・買い物ツアーお楽しみ会等のレクレーションを企画しています。また、個人の持てる力を引き出せるように関わっています。一例として書道の先生をしていた入所者の趣味を活かして、2ヶ月に1回スタッフを対象とした**書道教室**を開催しています。出来上がった書は、手本と一緒に廊下に展示して全入所者、職員の皆様に楽しんでいただいています。



書道教室実施中

中央センター2階

令和元年11月に第1センターと統合し、現在は大所帯となりました。園最高年齢者（100歳超2名）もおり入所者の高齢化が進んでおり、それに伴う病状や日常生活動作の変化も見られてきました。看護度・介護度も高まっていますが入所者の変化に合わせ、柔軟に生活援助を見直し一人一人の思いに添える看護・介護を目指しています。加齢に伴う体調不良もあり、起床時間、食事など、体調に合わせたケアを行っています。

また、多芸多才な入所者それぞれが楽しめるよう、室内での小さな活動で楽しんでいます。

<カラオケ>盲人会へ参加し楽しんでいます。

<百人一首>園最高齢101歳も上の句を読めば下の句をすらすら読みます。

<ゲーム>娯楽室で魚釣りゲームなど楽しみました。

ゲートボール全国大会経験者もいるため、室内ゲートボール大会を行う予定です。

<音楽喫茶>節句や七夕など季節行事ごと、入所者が好きな曲を選んで持ち寄り、音楽を聞きながら季節のお菓子とコーヒーを楽しんでいます。

<手作り>フラワーアレンジメント、サンドイッチ、お菓子など作り楽しんでいます。



「平目（青森県魚）釣れた？」

治療棟（一般寮）

一般寮入所者は現在、高齢化に伴い支援の必要性に応じて看護師や介護員が対応して一般寮での生活を続けています。本人が希望する県外への旅行や買い物等の要望にも対応しています。居室の定期的な清掃や医療処置の管理や服薬管理等、訪問看護・介護を通じて個別に対応し安全・安心な生活ができるように支援しています。また、保健科では、入所者と共に大人の塗り絵や折り紙などを使った作品作り・カラオケ練習、コーヒー喫茶などを行い、入所者の思いに寄り添った個別支援・生活支援・健康相談を行っています。



大人の塗り絵



カラオケ練習

行事の様子



歌謡交流大会



納涼祭